

第1回学校運営協議会 議事録

実施日：令和8年6月10日（水）

時 間：15：30～16：40

場 所：六郷高等学校 会議室他

1 全体会 I 15：30～16：00（30分）

(1) 開会

(2) 出席者紹介・委員委嘱

（敬称略）

佐藤 良一	六郷高校同窓会会長（地域代表）
栗林 守	美郷町教育委員会教育長
小西正一郎	教育振興会会長（外郭団体代表）
大阪 瑞穂	美郷中学校校長（地元中学校代表）
檜森 吉裕	美郷町商工会会長（地域代表）※欠席
小松 勉	地元町内会代表（地域代表）※欠席
鈴木 正洋	美郷町町議会議員（地元メディア代表）
長谷川幸子	美郷町議会議員・議会広報常任委員会委員長
藤岡 誠人	町活性化団体（地元NPO団体代表）
進藤 慎	前PTA会長 ※欠席
高橋 郷	福祉施設経営者 ※欠席
梶原恵美子	美郷町地域おこし協力隊
藤城甲子園	PTA会長
山城 寛幸	校長

(3) 会長挨拶（佐藤委員）

第1回学校運営協議会への参加に感謝する。長く会長を務めているが、効果的な手を打てておらず、会議で出た意見を実行に移し結果を残せていないという感想をもっている。美郷町を盛り上げるには六郷高校が必要だという認識で取り組んでいきたいと思っているので今後ともよろしくお願いしたい。

本日は奇譚のない意見をお願いしたい。

(4) 新会長、新副会長の選出

（大滝）

事務局案として、昨年同様に会長を佐藤良一 委員、副会長を栗林守 委員をお願いしたい。

『事務局案を承認』

(5) 学校運営方針の説明、承認 (資料について校長が説明)

(校長)

資料に沿って説明する。令和8年度は29名の新入生を迎えた。職員の入れかわりも数名あったが、本校が目指す学校像、生徒像は不易のものであるため昨年度と大きな変化はない。協議会のテーマである生徒数の減少については喫緊の課題であり、様々な観点から対応していかなければならないと痛感している。昨年度から入学者数の増加を目指して協議してきたが、今年度も引き続きこのことについて協議していければと考える。

現1年生が3年生になったとき、本校は80周年を迎える。周年行事に向けた実行委員会も立ち上げなければならない。委員の皆様にも協力をいただく場面があると思われる。

学校の取組と課題について。基本的な生活習慣の確立に関しては、遅刻者の減少を目指してマナーアップ運動を行ったり、社会人になるための基礎学力、基本的な技能の習得を目指し、教育振興会から補助を受けスタディサブリで学び直しを行ったりしている。生徒支援の充実については、生徒支援委員会による定期的なアンケートを実施し悩みをもった生徒に寄り添った指導をしている。生徒指導上の問題やいじめに関しては県教委と連携し対応している。

生徒が地域と協働する場の提供については、地域の行事に参加したり、プログラミング教室を開催したりしている。

進路指導について。この春に卒業した36名中25名が就職をした。11名が進学し、昨年12月中には全員の進路が決定された。

生徒募集について。委員の皆様に「地域みらい留学」への応募を承認していただきたい。「地域みらい留学」は他県から入学生を募るという企画である。市や町と連携し応募している例が多く、本校でも美郷町長や教育長、同窓会長と話し合いこれに応募したいと考えた。職員会議で承認は得ており、本協議会で承認を得たのちに応募できればと考えている。教頭より詳細について説明がある。

(川越教頭)

「地域みらい留学」は全国から生徒を募集する事業である。自治体と学校が連携し、募集の段階から、留学後の衣食住も含めてサポートする。県内では数校が取り入れており、学校の活性化のみならず、入学者の保護者が県内を訪れることによる経済効果も期待される。緊急時の対応など課題もあるが、今年度は県内他地域でも検討を始めるようだ。本校でも美郷町からの協力をいただきながら応募したい。

(校長)

このことについて何か意見があればお願いしたい。

(鈴木委員)

ぜひ応募してもらいたいですが、先に校名変更が必要であるとの意見が以前あったと思うが、このことについてはどうなったのか。

(佐藤会長)

校名変更については県の担当とやりとりした。「統合等の大きな変化のない状態での校名変更はメリットがなく、また、前例もない。」と説明を受け、難しいと感じている。このことは美郷町長にも伝えてあり、その前提での「地域みらい留学」への応募である。校名変更を待っているよりも、「地域みらい留学」への応募を先にした方がよいという

判断をした。

(鈴木委員)

チャンスがあれば校名変更をしたいということであるか。

(佐藤会長)

そうである。

(鈴木委員)

本会は県教育委員会にも意見を発することができる。校名変更に関して協議会としての意見書の提出も考えてもらいたい。六郷町がなくなって20年以上経っており、自治体名も美郷町である。柔軟に考えてもらうよう意見することはできるのではないか。

(藤岡委員)

他校の例で、なぜ秋田を選んだのか分かれば教えてもらいたい。

(川越教頭)

A高校では、学科の内容が好きといった生徒とその保護者が、実際に学校を訪れ魅力を感じたことが決め手となっているとのことであった。

(藤岡委員)

六郷高校に当てはめたときに、何を魅力にしたらよいのかが大事である。

(佐藤会長)

由利本荘市の高校にも留学生がいるようだが、なぜその高校を選んだのか理由が気にはなる。

(小西委員)

応募しても選ばれないといけないことが分かったが、どのようにして留学生は学校のことを知るのか。

(川越教頭)

年に何回か東京や大阪でのフェスがあり、そこに生徒と教職員が出向き説明している。また、ネット上に留学生を募集している高校を常に載せている。学校独自の説明会も行っており、自治体の協力も得ている。

(佐藤会長)

費用は100万円単位の額がかかる。募集をかけても来ない場合もある。

(藤城委員)

県外の学校に入学するという認識でよいのか。

(校長)

そうである。

(藤城委員)

そうであれば六郷高校に相当な魅力がなければいけない。私はソフトテニスで県的一位になりたくてソフトテニスの強豪校であった高校に入学した。ソフトテニスを例にすれば、現高校1年でも15, 6人は県外の高校に進学している。何か大きな魅力を出さないといけない。

(佐藤会長)

この話は4年前から出ている。六郷高校であれば自転車競技部や福祉科が考えられる。首都圏の子供が田舎で3年間過ごすことの意味合いにも魅力がある。

(鈴木委員)

首都圏の高校は飽和状態であり、集団の中で埋もれてしまう生徒もいると聞く。人数の少ない田舎の学校で、様々な体験をしたいと考える生徒も一定数いるそうだ。そのため大きな魅力がなければいけないというものでもないのではないか。

(梶原委員)

最後に勤めた高校は定員割れするような高校であった。しかし、きめ細かな指導ができ、生徒と教職員との密な関係ができ安心感が生まれた。保護者の信頼が厚くなり、親子で入学ということもあった。ピンポイントで進路を決めていたことや、服装がきちんとしている、挨拶がしっかりしているということが時間をかけて学校の魅力になっていった。

(佐藤会長)

県内では3例しかないが、全国的には全校生徒が50人ほどの高校が150人くらいまで増えた例もある。六郷高校で「地域みらい留学」に応募することについて、この場で承認を得て、美郷町に掛け合うことになる。

『運営方針を承認』

(6) 令和7年度第3回学校運営協議会の振り返り

①「飯詰駅から学校までのシャトルバスがあれば大仙市内や横手市内からも入学者が増えるのでは？」について。

(鎌田)

生徒向けのアンケートでは、回答73件のうち「利用したい」が7件(9.6%)であった。この7件のうち2件は美郷町在住で六郷高校よりも千畑寄りに自宅のある生徒である。実数は5件(6.8%)であると考ええる。

保護者向けのアンケートでは、回答63件のうち「利用したい」が12件(19%)であった。12件のうち1件は美郷町在住で六郷高校よりも千畑寄りに自宅のある生徒の保護者であった。その他は大曲、横手から通学している生徒の保護者からの回答であったが、内2件は両親とも六郷高校付近に勤務しており、現在送迎で登下校している生徒の保護者からの回答であった。実数は9件(14.2%)と考えられる。これらの結果をもとに、今後シャトルバスの運行に関して要望をするかどうかを検討していくことになる。

②「県内で唯一、福祉科を設置している学校であるということを、多くの人に知ってもらえるよう情報発信を工夫するのはどうか？」について。

(山崎)

これまで私が主担当で発信してきた。企業でもSNSの利用が見られるため、就職後のことも考え生徒にも発信の力を付けさせたく「学校PR同好会」を発足させた。現在は撮影について練習している段階で、慣れたら編集作業に移る予定であり、これまでと違った発信ができるようになる。

③「校内でのスマホの使い方を自由にするのはどうか？」について。

(伊藤)

生徒会の生徒にアンケートをとった。3分の2が使いたいと思うと回答した。用途については「調べ学習をしたい」が多かった。スマホでなければいけないのかという目線で見ると、タブレットでもできる回答ばかりであった。逆にタブレットでY o u T u b eやインスタグラムにアクセスできる状況にある。タブレットに対する別なルールが必要ではないかと考えている。

④「外観のイメージについて。飲み物の自動販売機を充実させてほしい。」について。

(教頭)

以前の協議会で挙げた電子決済による生徒の弁当購入について説明をする。「ペコフリー」という業者が、高校近隣のスーパーや弁当店にアプローチし、生徒が電子決済で弁当を学校で購入できるようにするサービスを行っている。使い方はアプリをダウンロードし、お金をチャージし、そこから支払う。近隣の弁当業者等が学校に届けそれを生徒が食べるという流れになるようだ。県内では二校の例があり、B高校では全校生徒30人中3～5人が利用しているとのこと。今のところは大きな問題はないとのことであった。

⑤「全校で楽しめる行事を増やすのはどうか？また、空き教室を有効に活用する？」について。

(照井)

5月にクラスマッチ、運動会、笹竹祭についてアンケートをとったが、満足が多かった。新規に何か行いたい行事はあるかとの問いには、一つだけ、なべっこという意見が出た。創意工夫のある行事をと考えており、その一つとして今回のクラスマッチには「eスポーツ」や「ババ抜き」を種目に組み入れ皆が参加しやすくなる工夫を取り入れた。

⑥「夜市、美郷フェスタなどの地域イベント事務局（会議の場）を六郷高校内に設置してはどうか？」について。

(栗津)

ラベンダーに関する商品開発事業に一昨年からボランティアとして参加しており、今年も継続して参加できればと考えている。全国高校総合文化祭が秋田県で開催されるが、「北のかおり」さんから購入したラベンダー使用し香袋を作成し配布できないかと考えている。

⑦「中学校を訪問して、六郷高校の活動状況を知ってもらう機会を作るのはどうか？」について。

(石川)

数年前まで教員が出向き説明していたが、ここ数年はなくなった。中学校でこのような行事がなくなったのかもしれない。もし、こういった場面があれば六郷高校について詳しく伝えられると思う。

(校長)

学校PRのDVDなどを作り、それを見てもらう場面をつくってもらうことが考えられる。

分科会 16:15～16:40 (25分)

Aグループ

テーマ：令和7年度第3回学校運営協議会の振り返り①③④⑥について

委員：栗林守、小西正一郎、長谷川幸子、梶原恵美子、山城校長、草薙事務長
高橋正浩、栗津奈々、伊藤公介

ファシリテーター：川越教頭 記録：鎌田裕太

①について

(小西委員)

バスは金銭面で無理だと思う。

(栗林委員)

タクシー会社に相談してみることはできるのではないか。

(小西委員)

主に高齢者が利用しているタクシーのサービスを応用できないか。

(川越教頭)

タクシーという意見があるがこのことについて意見があればお願いしたい。

(高橋)

1回400円の乗合タクシーである。登録して1人400円で利用できる。

(川越教頭)

往復800円と考えると高いかもしれない。バスは厳しいが、バスに代わるものを考えていく。乗り合いタクシーなら可能性があるかもしれない。

③について

(栗林委員)

校内でのスマホ使用を解禁している学校はあるか。

(校長)

県内でスマホを校内で自由に使用させている高校はないと思う。県北ではあまりないが、県南の多くの高校は朝にスマホを預かっている。校長会ではタブレットをスマホのように使っているのが問題であると話題になった。情報モラルの育成が急務であると感じる。

(小西委員)

C高校はどうか。

(伊藤)

電源を切ってバックにしまっていて、使う場所を限定しているとのことである。

(小西委員)

禁止でよいのではないか。利便性を見いだせないのでは禁止のままでよい。

(川越教頭)

スマホに関しては現状のままとする。

④について

(小西委員)

弁当販売についてだが、是非やってみてはどうか。地元の商店街としてもありがたいことである。

(校長)

現在、県内では二校が利用している。近隣のスーパーや弁当店が協力してくれるのならぜひ進めたい。

(栗林委員)

飲み物の自販機の充実からこの話がにつながったが、飲み物に関しては充実はいらないのか。

(事務長)

電気、場所代等は全部業者持ちである。採算がとれず県内でどんどん撤退している現状であり、受け入れる業者は少ないのではないかと考える。

(小西委員)

地元で設置したい業者がいるかもしれないので募集してみてもどうか。

(事務長)

行政財産の目的外使用のため、こちらから積極的に売りこむことはできない。

(川越教頭)

学校からの自販機設置の売り込みはできないので、ぜひ委員の皆様の協力をお願いしたい。弁当販売に関しては実行する。

⑥について

(小西委員)

現在も1年生が地域とかかわる行事を行おうとしている。また、竹打ちに関しては継続して関わってくれている。

(川越教頭)

もし他にこんなことにも参加してくれればというものはあるか。

(小西委員)

六郷高校が地域行事に関わっていることを、媒体を通じて知ってもらうことで、一緒にやりたいという団体が出てくるかもしれない。現在も竹打ちに関しては新聞に載せてもらうようにしている。

(川越教頭)

メディアやCS通信を通じて現状をもっと知ってもらうことから始める。

(栗林委員)

小西委員は学校と地域をつなげる役を担っている。是非協力を得るべきである。

(伊藤)

今年の1年生は六郷小学校とともに町探検を行う。仙南小学校も今年初めて町探検を行うようであり、そこにも六郷高校からの参加の要請がある。

(小西委員)

竹打ちではバスケットボール部にいつも協力してもらっている。六郷高校が小学校とうまくつながっていけば、中学校ともつながってみたいかという話になる。

(栗林委員)

商店のポスターづくりを小学生がやっている。それを六郷高校生がやってみればどうだろうか。

(小西委員)

外郭団体は予算をもっているのでぜひ伺いを立ててみてはどうだろうか。

(川越教頭)

小学校が地域とつながっているところに、高校生が絡んでいける

(梶原委員)

東京勤務のときの話であるが、商店街の広報に高校生の枠があった。高校生らしい切り口で発信ができるのではないかな。

B グループ

テーマ：令和7年度第3回学校運営協議会の振り返り②⑤⑦について

委員：佐藤良一、大阪瑞穂、鈴木正洋、藤岡誠人、藤城甲子園

ファシリテーター：大滝花子 記録：小松徳彦

②について

(山崎)

福祉科の先生方に協力をお願いし、自分が福祉科の実習風景などの編集を担当している。今後も協力しながら情報発信を続けていきたい。

(高木)

はじめ、撮影には抵抗があったが、編集が上手だったため授業の様子の撮影を進めている。今後も発信をしていきたいと考える。また、現在の福祉科の案内が古いため新しく作り直したい。

(大滝)

インスタグラムやリーフレットについての話があったが、このことについての意見はないか。

(佐藤会長)

「紹介」だけではなく、「楽しい福祉科」や「得する福祉科」のような魅力が伝わる内容が必要であると考えている。例えば、介護福祉士資格取得による年収差や、福祉での活躍事例などを盛り込んでみるのはどうだろうか。動画ではなく紙媒体でもよい。県内唯一の福祉科であるが、中央地区での認知度は不明である。その視点で発信を考えてはどうだろうか。経費も考慮しながら工夫が必要である。

(藤岡委員)

「釣る魚によって餌を変える」ように、ターゲットに応じて発信方法を変えるべきである。若者をターゲットにするのであればインスタグラムを活用し、大人をターゲットにするなら新聞やテレビといったメディアを活用するなど、誰に向けた情報発信なのかを明確にする必要があると考える。

(佐藤会長)

生徒募集である以上、対象は中学生とその保護者ではないか。紹介資料の配布は中学校が中心になるのではないかな。

(大阪委員)

中学校には高校紹介の掲示板がある。飛びつきやすい広告を作り、そこにＱＲコードを載せれば、興味をもった中学生がさらに情報を得られる仕組みになる。

(藤城委員)

他校では学校紹介プリントにＵＲＬを掲載し、ＨＰへ誘導していた。入試関連情報は保護者がよく見るため、大人に向けた発信が重要ではないか。また、アックスやイオンなど地域の商業施設で掲示すれば高齢者にも届くと考え。インスタグラムだけに偏らず、紙媒体も必要なのではないか。

⑤について

(大滝)

⑤の空き教室の活用や、テレビ番組出演について説明をお願いしたい。

(照井)

生徒からバラエティ番組への応募希望があった。仮に採用されれば全校アンケートを実施し、全校生徒に出演の許可を取りながら進めたい。

(大滝)

クラスマッチ・体育祭・学校祭など行事は充実しており、生徒の満足度も高いようであるが、その他の意見をお願いしたい。

(佐藤会長)

以前も提案したが、町内の団体の拠点として、空き教室を提供してはどうだろうか。空き教室を提供すれば、マスコミにも取り上げられやすく、また、生徒が地域行事に参加しやすくなるのではないか。

町の会議を六郷高校で行うのはどうだろうか。会議の流れを生徒が見ることも学びになる。

(照井)

会議の様子をオンラインで見せることも教育的効果がある。

(大滝)

学校祭では県キッチンカー協会に依頼しキッチンカーを招致した。町内にもキッチンカー販売の飲食店は多くあるため、今回は町内のキッチンカーにも依頼したい。

(照井)

美郷町ＰＲのために、生徒会の生徒が取材した記事が６月１３日のさきがけ新聞に掲載予定である。また、高総文祭に写真部の作品が出品され、このことについての記事も６月１９日に掲載予定である。

⑦について

(大滝)

教務主任から中学校を訪問し、六郷高校の現状を知ってもらう取組を進めたいとの考えが全体会で示されたが、このことについて意見をお願いしたい。

(大阪委員)

数年前までは各高校が訪問していた。地元校である六郷高校は、学校祭でブースを出すなどＰＲの場を作ることは可能である。早めに関係各所で計画すれば実施できるのではないか。美郷中学校としては、そのような六郷高校ＰＲの場は提供できるかもしれない。

(鈴木委員)

美郷中学校以外の中学校にも積極的に訪問してほしいと感じる。その際は紙媒体を持参してPRしてほしい。

リーフレットがどこまで届いているのか不明である。全県の中学校に届けてみたらどうだろうか。

(藤城委員)

大館地区では六郷高校福祉科の認知度は低い。

(佐藤会長)

過去に秋田市から通っていた生徒はいたものか。

(高木)

母が横手出身で通っていた生徒はいた。

(鈴木委員)

まずは簡易的チラシを作成し、興味をもった生徒にはより詳しい資料を渡すなど、段階的なPRが望ましいと考える。

3 全体会Ⅱ 16:35～16:40 (5分)

(1) 各分科会からの報告

◆Aグループ

(鎌田)

①については、シャトルバスの運行は現実的ではなく、他の手段について意見が出た。タクシー会社に掛け合い、乗り合いタクシーのようなサービスであれば可能性があるのではないかと考えた。

②については、タブレットをスマホのように校内で使用している状況があるため、新たなルール作りと、スマホに関しては現状維持ということでまとまった。

④については、飲み物の自販機については学校から業者に積極的な働きかけはできないため、委員の協力を得ることになった。弁当販売に関しては、サービス利用に向け動き出すこととなった。

⑥については、現在も地域と関わりが多いがこの現状をもっと発信していくことで、六郷高校と事業を行いたいという団体が名乗り出るのではないかと意見が出た。また小学校とつながり、それが成功すれば中学校とつながるといったように輪を広げることを目指してはどうかということになり、外郭団体の協力を得てこれまで以上に地域とつながることとなった。

◆Bグループ

(小松)

②について、Instagramや福祉科のリーフレットに関する意見交換が行われ、子供たちだけではなく大人に向けたPRができればどうかという意見が出た。大人へどのようにPRしていくかを考えるていくこととなった。

⑤については、「空き教室」にスポットが当てられ意見交換がなされた。例えば町の行事に空き教室を提供してはどうかという意見が出た。もし空き教室を提供するとなれば、行事の際どのような段取りが必要なのかを生徒が学ぶ機会が生まれる。また、テレ

び出演が叶えば生徒に出演の可否を確認するなどの準備が必要になってくるという意見が出た。

⑦について、六郷高校が出向いて、中学校の学校祭等でPRができればどうかという意見が出た。また、県南地区のみならず、全県に六郷高校を知ってもらうために段階的に情報を発信するリーフレットを作成してはどうかとの意見が出た。

(2) 学校運営協議会副会長 挨拶（栗林委員）

小グループでの意見交換だったため、話しやすい雰囲気で見聞を出すことができた。このような雰囲気を1年間続けることができれば、良いアイデアも出てくるのではないかと感じる。本日はありがとうございました。

(3) 諸連絡

（大滝）

第2回学校運営協議会は10月20日（火）、第3回学校運営協議会は来年2月22日（月）を予定している。

（校長）

年間行事予定では、12月に第2回を予定していたが、その日程だと中学生の進路選択の面談に間に合わず、早い方が良いだろうと考えこのようにした。

（照井）

6月13日（土）に本校生徒が取材した記事がさきがけ新聞に載る予定である。また、今年の全国高総文祭に出展する写真部の生徒がいるが、その記事も19日（金）のさきがけ新聞に載る予定である。

（梶原委員）

おとし、東京の調理専門学校で学生と六郷高校生が開発したスイーツが、美郷町のラベンダー園で販売中である。ぜひ試していただきたい。